



双松会会報

第37号「双松会」通巻41号「松高北高同窓会報」通巻41号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.14

普通科25期・理数科4期
(昭和49年卒)

エール 世代を超えた応援歌

その日の浜山球場は突き抜けるような青空に包まれ、凜として温かく球児たちの熱戦を見守っていた。

「9回裏2アウト満塁、0対2のビハインド。相手ピッチャーは最後のバッターにしよう」と渾身の力でキャッチャーミットめがけて投げ込む。そうはさせじと初球から打つて出る。打球はショートへ転がる。万幸休すかと思った瞬間、神の仕業かイレギュラーかなんと遊撃手がファインブル。1点が入り1対2。なおも満塁。俄然応援団のボルテージが上がる。「さあ、行きましよう(さあ、行きましよう)」

この一回一気(この一回一気)に試合を決める(試合を決める)。相手ピッチャーもこれまでの練習の日々とバックを信じ残された力で次のバッターに向かう。打ち返す。打球は三遊間を抜けレフト前へ。3塁ランナー生還。3塁コーチが引きち

ぎれんばかりの勢いで大きく腕を回す。2塁ランナーはそれを見て3塁ベースを勢いよく蹴ってホームへ突入。セーフ! 3対2。逆転サヨナラの奇跡的大勝利。スタンドの応援団は狂喜乱舞の大騒ぎ。

春の選抜甲子園の予選とも異なる県秋季大会でベスト4入りを果たした生涯忘れられることのない一場面である。

息子が今春まで在籍したこの北高野球部は、堀川遊覧船乗り場が近く松江地ビール館も目の前の観光地のご真ん中に活動拠点の船や散策中の観光客にボールが当たる恐れがあるとのことで防護ネットを改修したほどだ。

県内屈指の雨天練習場、2階建てのクラブハウス、照明設備などを有し施設環境は充実している。特に雨天練習場は山陰松江においては大変重宝しており、バッテリー練習や投球練習などに大活躍している。部員数は息子の学年は野球好きが特に多く26人。進学校としてはかなり

の大手帯となっている(全学年では48人)。そのため部室が足りず急遽増設することにもなった。我が川津校舎時代はどうだったかと思ひ巡らせ、元野球部キャプテンのK君に尋ねてみた。

「当時、3年生部員は4人(全学年では23人くらい)。グラウンドは野球部専用ではなくサッカー部と共用で二分割して使用していた。そのため練習時間や練習メニューに制約があり不便を感じ

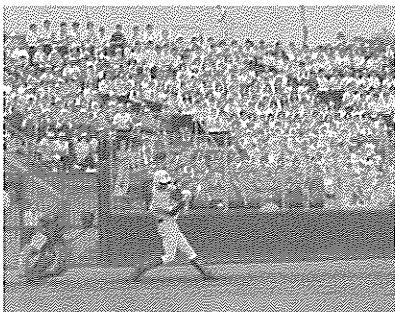
ていた。安全面などを考慮し境界線にネットを置いた。それでも硬球はそれを飛び越え時々サッカー部員の近くに着弾した。よく怪我人が出なかったものだと思う。今のように照明設備は無いので日が短い季節などはあつという間にグラウンド練習が終わったこともちゃんと覚えていたよ。」とコメントをしてくれた。

もちろん時代が違うので単純な施設比較はできないが、そうは言ってもやはり21世紀枠の先輩たちが残してくれたレガシー(雨天練習場)は偉大だなとつくづく思う。

幸運にもこうした野球と息子たちのおかげでこの3年間本当に感慨深い貴重な体験ができた。激戦が終わった後の広い球場で校歌を歌える喜び、伝統ある北高カラーえんじ色の応援シャツを着る心地よさ、千人近い全校応援の迫力等々、まるであの頃

にタイムスリップしたかのような景色だ。また北高OB諸氏の熱い母校愛にも出会えた。試合には老いも若きも大勢駆けつけてくれ、野球を通じてそれぞれの「あの頃」に戻り、それぞれが「走馬灯」を回しながら大声でエールを送っているのだ。「奈良県のWさん、遠方にもかかわらずお越しいただき躍動感溢れる素晴らしい写真の数々をありがとうございます。いつもSNSで力強い応援メッセージを発信してくれたKさんありがとうございます。おかげであの強豪私立校との激闘を制することができました。」「ご夫婦ともOBのIさん、ペアのえんじシャツでの息の合った応援ありがとうございました。ありがとうございました。」

熱戦を繰り広げた球児たちは、この4月一人一人が選んだ道へ巣立って行った。残された「親父たち」は所在なく夕暮れとともにいつもの場所へ以前にも増して集まるようになった。そしてそこではあの大合唱が始まる。監督方へはあちろんのこと、大きな感動とかけがえのない思い出を与えてくれた26人の勇者たちへ感謝の意を込めて、「松江北高ここにあり!」



県下最大級の全校応援

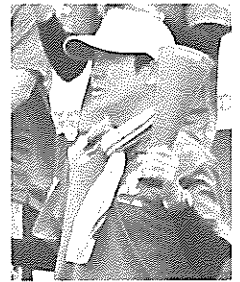
「当時、3年生部員は4人(全学年では23人くらい)。グラウンドは野球部専用ではなくサッカー部と共用で二分割して使用していた。そのため練習時間や練習メニューに制約があり不便を感じ



球児たちの技術向上を支えた雨天練習場



甲子園まであと一歩だった頼もしい後輩たち



規家 孝一

規家 孝一

事務局だより

一、創立140周年記念事業について

○記念総会開催のご案内

期日・平成28年11月12日(土)
会場・ホテル一畑(松江市)

記念講演

講師・カゴメ株式会社
代表取締役社長

寺田直行氏(北高24期)

演題・「カゴメの長期ビジョンとシニアの食育」

本年は創立140周年を迎え、記念総会を開催します。詳細は同封の案内にてご確認ください。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

○同窓生名簿「双松」発刊のお知らせ
時期・平成28年10月
価格・5千円(送料・税込)

記念事業として、5年ぶりに同窓生名簿(平成28年版)を発刊します。今回は作成から販売までを業者(株サラト)に委託しております。予約・購入等、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

○「世界の人たれ北高生！基金」のお願い
記念事業の一つとして、寄付による新たな基金を創設し、北高の教育活動を支援していただくことになりました。趣意等の詳細は、同封の案内をご覧ください。ご協力をお願い申し上げます。

○起雲館資料室の開放
期日・平成28年11月12日(土)
時間・9時～12時

松江北高校敷地内の起雲館(卒業生会館)3階の資料室と茶室を開放いたします。お時間のある方は、是非お越しください。なお、川津校舎時代の資料を探してあります。写真等お持ちでしたら、事務局までお知らせください。

○記念イベント開催について

①野球部招待試合
期日・平成28年11月13日(日)
時間・9時45分～17時
会場・松江市宮野球場

招待校・県立鳥取西高等学校

②交流ライブコンサート
期日・平成28年11月13日(日)
時間・14時～17時
会場・クロス(松江市伊勢宮町)

参加・OB、教職員、生徒有志
参加申込方法等の詳細は北高ホームページでご確認ください。
http://www.natsuekiiaed.jp

二、寄付金のお礼(敬称略)
昨年の8月以降、次の方々より寄付金を頂戴いたしました。ご披露に併せ厚くお礼申し上げます。

昭和40年卒(16期)より
6万2775円
(内3万円はバドミントン部へ)

昭和61年卒
(普通科37期・理数科16期)より
3万円

平成28年卒
(普通科67期・理数科46期)より
105万円

○「北高の縁を守る基金」へ
佐藤美幸、森脇祥吉、田代暎子、吉野富雄、新井功子、山田博巳、内藤進、古川恵子、糸賀幸子、日野かおる、林友子、船江昭光、梶谷敏(故)

○会報助成金会計の報告
支出なし

三、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会
平成28年10月15日(土)
於アルカディアア市ヶ谷

○近畿双松会の総会

平成28年11月27日(日)
於 中央電気倶楽部

○広島双松会の総会
平成28年11月19日(土)
於 広島ダイヤモンドホテル

○米子双松会の総会
平成29年2月下旬
(詳細は後日)

平成28年度双松会幹事総会報告

7月3日(日)サンラポールむらくもにおいて、まず14時から「創立140周年記念総会 第一回実行委員会」が開催され、当日の内容等の審議を行った。引き続き15時30分から「幹事総会」が開催された。90名近くが出席し、会合の後には懇親会も開かれ、和やかな時を過ごした。

【議題】
一、平成27年度会務報告(承認)
二、同決算報告、監査報告(承認)
三、平成28年度会務計画(承認)

【報告】
一、名簿について
二、会報について
三、双松について

平成28年度双松会役員
顧問 金築 修(松中61期)
顧問 松本 幹彦(松高11期)
会長 庄司 隆(松高11期)
副会長 金津 任紀(北高16期)
山本 隆志(松高6期)

幹事長 金平 憲(北高16期)
副幹事長 庄司 尚史(北高23期)
監事 栗原 康郎(北高13期)
常任幹事 山口 和助(北高14期)
杉原 伸治(北高30期)
長廻 和助(北高14期)
吉金 隆(北高19期)
松田 龍志(北高21期)
小原 優子(北高22期)
玄行 登(北高23期)
林原 寛治(北高29期)
長崎 悦子(北高29期)
貴谷 紘行(北高31期)
馬庭 伸行(北高34期)
田邊 真司(北高36期)
岩本 雅之(北高38期)
武藤 立樹(北高42期)
安松 宗徳(北高43期)
中脇 寛之(北高45期)
事務局長 多々納雄二(松江北高教頭)

平成27年度 双松会会計決算書

収入総額 3,355,250
支出総額 2,497,792
差引残高 947,451 ...次年度へ繰越

Table with columns: 収入, 支出, 増減, 備考. Rows include 入会費, 経費, 雑収入, etc.

平成28年度 双松会会計予算書(案)

Table with columns: 収入, 支出, 増減, 備考. Rows include 入会費, 経費, 雑収入, etc.

Table with columns: 収入, 支出, 増減, 備考. Rows include 会報発行費, 経費, 雑収入, etc.

特集

「紅陵会」について

昭和55年3月12日、北高の教育活動の助成等を行いつつ有能な人材の育成を図ることを目的として、財団法人紅陵会が発足し設立されました。公益法人制度改革に伴い、平成25年4月1日、一般財団法人紅陵会に移行しました。

基本財産(昭和53年竣工・同窓会館)

(財産種別)

建物

(場所・物量等)

松江市奥谷町164番地

起雲館

鉄骨コンクリート4F

床面積:1,401㎡

1F 食堂及び購買

(53年4月開設)

2F 補習科教室、職員室及び和室

3F 芝蘭室(資料室)、和室、浴室、茶室(53年6月17日茶室開き)

4F 研修室(ホール)となっておりま

具体的な事業として直近の平成26年と27年のものと28年の予定を上げておきます。

1. 北高の教育活動に対する助成

(1) 体育部系部活動助成

バスケットボール部

タイマー購入 (26年度)

新体操部

レオタード購入 (27年度)

登山部

テント購入 (28年予定)

(2) 文化部系部活動助成

部活動指導者報酬助成

箏曲部・茶道部・華道部

百人一首部・囲碁将棋部

(26年度・27年度・28年予定)

美術部・イーゼル購入

文芸部・パソコン購入 (26年度)

演劇部・アンプ購入 (26年度)

吹奏楽部・楽器修理 (27年度)

弦楽部・楽器購入 (28年予定)

(3) 北高10年史(平成18年〜27年度版)編纂のための助成(積み立て)

(26年度・27年度・28年予定)

2. 北高の生徒及び進学を志望する高等学校卒業生に対する施設設備の提供

(1) 部活動のための使用

箏曲部・茶道部・演劇部・百人一首部ほか

26年度・27年度・28年(予定)

(2) 部活動合宿使用

女子バレーボール部・バトミントン部・ボート部・野球部・剣道部ほか

26年度・27年度・28年(予定)

(3) 補習科の使用

平成26年度 生徒数 21名

平成27年度 生徒数 24名

平成28年度 生徒数 30名

3. 起雲館の維持管理

(1) 維持修繕工事

玄関ホールスロープ設置工事・研修室2エアクン修理工事

起雲館入り口ドア修理 (26年度)

耐震診断の実施

煙感知器交換・ドア錠交換・1階網戸取り付け工事 (27年度)

耐震補強設計の実施(県の補助制度活用) (28年度予定)

耐震補強工事等の実施 (29年度予定)

※近年、施設設備の老朽化が著しく、その対応が喫緊の課題です。

以上

今後とも紅陵会の運営につきましては双松会同様、皆様にご理解を賜りますと共に、温かいご支援ご協力をお願い致します。お分り難い点は事務局にファックス・メール等でご質問下さい。お電話での問合せはご遠慮下さい。

一般財団法人紅陵会

理事長 金平 憲

(事務局)

松江北高事務長 永井 隆

TEL: 085212114888

FAX: 085212114977

平成28年度双松会幹事一覧

S35	S35	S35	S35	S34	S34	S34	S34	S34	S33	S33	S32	S32	S31	S31	S31	S31	S31	S30	S30	S30	S29	S28	S28	S27	S27	S27	S26	S26	S26	S24	S24	S24	S23	S21	S21	S20	S18	S17	S17	S16
高11	高11	高11	高11	高10	高10	高10	高10	高9	高9	高8	高8	高7	高7	高7	高7	高7	高6	高6	高6	高6	高5	高4	高4	高3	高3	高3	高2	高2	高2	高1	高1	中68	中67	中67	中66	中63	中62	中61	卒業年	
長谷川昭博	内藤進	小林哲朗	庄司肇	西尾辰郎	秋本澄子	物部真二	田中瑞夫	松村義邦	大野起道	勝田恒夫	今村芳郎	吉野富雄	森脇義弘	細田重雄	引野義就	内藤昭彦	安部昭彦	中島洋子	熊谷侑子	大北哲也	山本隆志	田村郁夫	長野忠	泉完次	北尾篤子	内藤哲朗	井原泰	安達伸次	葛尾信弘	福島彰雄	石倉芳江	松本幹彦	松本功	内藤明	青戸正武	戸田修一	佐藤年秀	平本卓治	安部正哉	金築修
S46	S46	S46	S46	S45	S45	S45	S45	S45	S44	S44	S44	S44	S43	S43	S42	S42	S42	S42	S42	S41	S41	S41	S41	S41	S40	S40	S40	S40	S39	S39	S38	S37	S37	S37	S37	S36	S35	S35		
北高22	北高22	北高22	北高22	北高21	北高21	北高21	北高21	北高21	北高20	北高20	北高20	北高20	北高19	北高19	北高18	北高18	北高18	北高18	北高18	北高17	北高17	北高17	北高17	北高16	北高16	北高16	北高16	北高15	北高15	北高14	北高13	北高13	北高13	北高13	北高13	北高12	北高11	北高11	卒業年	
吉岡宏	福島邦雄	田江泰彦	小原優子	菅野恵子	高尾あや子	橋本広幸	加島幸夫	大森正巳	松田龍志	勝部昌幸	名越昇	梶井成人	井上博夫	古藤光男	吉金隆	矢野義典	福田正明	名越啓三	奥原裕	石飛裕	高橋雄一郎	谷正志	井上一夫	柏木英作	長谷川宏	山口慎子	金平憲	古瀬誠	金津任紀	渡部俊美	野津祐一	長廻和助	池田久美子	野津昭夫	岸憲一	江指憲一	栗原康郎	岡美知雄	藤井淳弘	金津政次郎

H 3	H 2	H 1	H 63	S 63	S 62	S 62	S 61	S 60	S 60	S 59	S 59	S 59	S 59	S 58	S 58	S 57	S 57	S 56	S 55	S 55	S 55	S 55	S 54	S 54	S 53	S 53	S 53	S 52	S 52	S 52	S 51	S 50	S 50	S 49	S 49	S 47	S 47	S 47	S 47	S 46				
北高42	北高41	北高40	北高39	北高39	北高38	北高38	北高37	北高36	北高36	北高35	北高35	北高35	北高35	北高34	北高34	北高33	北高33	北高32	北高31	北高31	北高31	北高31	北高30	北高30	北高29	北高29	北高29	北高28	北高28	北高28	北高27	北高26	北高26	北高25	北高25	北高23	北高23	北高23	北高23	北高22				
武藤立樹	勝谷有史	飯塚美和子	楠一信	中西一滋	金坂康弘	中村和美	岩本雅之	安食民也	原啓一朗	安部敏弘	田邊真司	渡部文夫	西村晃	田中俊行	古藤忠男	小村隆	錦織正恵	馬庭伸行	吉田孝	藤本隆敏	葛尾浩司	糸川孝一	松本修吉	貴谷敏行	景山直観	森脇光成	杉原伸治	守谷光広	長崎悦子	林原幹治	岡本隆志	室崎隆司	矢野信夫	大野日出夫	安部裕史	津森均	泉雄二郎	西山彰	中村光男	伊達倫代	玄行登	庄司尚史	河原一朗	西尾俊也

通信制	H 24	H 23	H 22	H 22	H 21	H 21	H 20	H 20	H 20	H 19	H 19	H 19	H 18	H 18	H 17	H 16	H 16	H 15	H 15	H 14	H 14	H 14	H 13	H 13	H 13	H 13	H 12	H 11	H 10	H 10	H 10	H 9	H 9	H 9	H 8	H 7	H 7	H 6	H 5	H 4				
副会長	北高62	北高61	北高61	北高61	北高60	北高60	北高59	北高59	北高59	北高58	北高58	北高58	北高57	北高57	北高56	北高55	北高55	北高54	北高54	北高53	北高53	北高53	北高52	北高52	北高52	北高51	北高51	北高50	北高49	北高49	北高49	北高48	北高48	北高48	北高47	北高46	北高46	北高45	北高44	北高43				
坂本育穂	野津裕	立脇太優	山根彩実	曳野耕平	別所麻由子	加藤智崇	佐々木翔平	山下倫生	森澤萌美	高木春奈	井原謙	船越郁世	小森康弘	金森綾子	青戸祐樹	勝原麻里絵	増本歩美	山中琢子	門脇裕	恩田佳幸	多和田理映	高木洋典	青山依未	山下良美	春田馨	出雲あすみ	増田笑子	高橋大地	野津美沙	踏江直政	小田川誠治	松尾敦子	樋野智久	佐々木慎一	梶谷英伸	門脇輝昌	安達朋秀	宅和優木	宮部勝弘	裏辻雅教	水本和美	中脇寛之	山口周平	安松崇徳

各期だより

卒業30周年 同窓会

普通科37期・理数科16期(昭和61年卒業) 代表幹事 大島 正也

平成27年8月15日 夕刻

エクスセル東急ホテル

受付迎りにだんだんと多くの人が集い、懐かしい驚きの華を咲かせ始めている……

卒業30年にあたり、学年の同窓会を催すことを計画し始めたのは、同窓会から遡ること9カ月前、師走の慌ただしい毎日を送っていた時でした。一つ上の先輩方から「たくさん集まったで」と話を聞かされていたこともあり、何とか成功させなければと、月に一度の幹事会を毎月重ねていきました。名簿集めから始まり、各クラス幹事に集まって頂き同窓会の前哨戦のような幹事会で少しずつではありましたが前に前にと進めていきました。

いよいよ迎えた当日、久しぶりに集う顔にはみんな満面の笑みが浮かび、肩をたたき合ったり、抱き合ったりと開会を待たずに同窓会は始まりました。

地元に住まいしている者だけではなく、県外からこの同窓会に予定を合わせて帰省してくれた仲間たち、当日は120名を超える参加者があり、会場狭しと歩き回る人がいれば、じっくりと席について懐かしい話をしてる人もあり、それぞれに久しぶりの同窓会を楽しんでいました。先生方にも多くご出席頂き、30年の月日で私たちの成長した姿をお見せ出来たこと、大変嬉しく思いました。

途中、懐かしい写真をスクリーンに映し出し、若き日々、若き容姿を懐かしみながら、皆で見えていました。もちろん最後には「校歌」を全員で合唱し、佐藤健治先生に締めのご挨拶を頂戴して中締めとなりました。別れを惜しむ同級生たちは、再会を約束していました。

二次会は伊勢宮町にて開催しましたが、二次会から参加した人たちもあわせて百名を超える参加者に、会場内で席を移動することもなかなか出来なような盛況ぶりでした。二次会の後もそれぞれ別れ難く、いつまでもこの時間が流れて行って欲しくない、そんな青春の日々を思い出させる一夜となりました。

松江北高等学校同窓会 普通科:第37期 理数科:第16期



双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長 中村 康一(北高16期)

NHK朝ドラで放映中の「とと姉ちゃん」に、暮しの手帖、編集長・花森安治のモデル花山伊佐次が登場します。花森氏は旧制松江高校出身なので、直接のOBではないのですが、やはり幹事会では話題になっていきます。松江城、錦織選手などに次いで郷里の話題が続きうれしい限りです。

本年度の総会は第61回となります。人間で言えば、還暦を過ぎて新たな時代に入ったところでしょうか。母校が今年140周年を迎えることを考えると、まだまだ若輩とも思うこの頃です。講演は、森田六朗氏です。中国に日本語教師として在任された体験から本音の中国を語って頂きます。ホームページは、総会報告、随筆、自由投稿、各種案内など盛りだくさんです。入会申し込みも可能です。是非一度、アクセスしてみてください。(http://www.tokyo-soshokai.org/)

平成28年度第61回総会・懇親会 期日:10月15日(土)正午から

午後3時半頃 会場:アルカディア市ヶ谷 (私学会館) JR/地下鉄市ヶ谷駅 徒歩2分

電話:0332619221 講演:森田 六朗(北高S38年卒・14期) [近くて遠い国]

お問い合わせ先: 東京双松会事務局 〒102-0084 千代田区二番町11-3 [中央印刷事務器(株)内] TEL 03326514858

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 渡辺 悟(北高20期)

平成27年最大のトピックスは言うまでもなく、我らが松江城の国宝指定。というわけで、27年度総会の講演会は清水伸夫・松江市教育長(北高20期)をお招きし、「松江城国宝指定と今後のまちづくり」についてお話をうかがいました。

清水副教育長(当時)が文化庁担当者から「国宝指定のヒント」を授かり、松浦正敬市長に報告して始まった今回のストーリー。国宝への道筋に実に多くの方が関わっていることが講演で浮き彫りになり、

110名を超す参加者一同、感慨を新たにした次第です。本年度の活動骨子は以下の通りです。松本耕司会長(北高16期)のモットーは、「母校や故郷の発展を願って相集い、大いに氣勢を上げ、大いに人生を楽しむ場に」。肩のこらない楽しい催しが目白押しです。近畿在住の方々のご参加を心よりお待ちいたしております。

平成28年度総会・懇親会 期日:11月27日(日) 午前11時半~午後3時半 会場:中央電気倶楽部 (大阪市北区) 講演内容は未定

その他の行事

ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーキング、里山ハイキング、落語鑑賞、年報発行

お問い合わせ先 事務局長 渡辺悟宛 携帯:09014496085 メール:s.watanabe@kousoku-offset.co.jp

米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫(北高15期)

「近畿双松会HP」から各参加お申し込みできます。 http://www.kinki-soshokai.org/ 本年総会は、3月6日金津

任紀双松会会長、金平憲幹事長、泉雄二郎北高校長をお迎えし開催しました。

今年は、イラストレーターの山口はるみ氏(松江高校昭和29年卒・5期)の作品展示を行い会場を盛り上げました。

講演は、米子市在住で日本山岳会会員の長田健三氏に「77歳の挑戦〜6000m登頂とチベット文化に触れる旅」と題して話をいただきました。78歳の今も世界の山々へ挑戦し続けるパワーに圧倒されました。

恒例の納涼会は「皆で暑い夏を元気で乗り切るパワーを養い、米子双松会の意気込みを発揮しよう」と、7月10日米子全日空ホテルで開催し、漢方に関して経験豊富な薬剤師の白石俊治氏(昭和39年卒・北高15期)に「漢方薬・薬草茶で生活習慣病の予防・改善を」の題で話をいただきました。懇親会で大地ビールとおいしい料理で暑気払いをします。

ゴルフ部会は、毎月大山周辺の3ゴルフ場をローテーションでコンペを実施し、毎回20名程の参加があります。旅行部会は11月12日の双松会140周年記念総会参加を兼ねて、松江周辺のパワースポット巡りを行う予定です。

米子市周辺に在住の方、勤務の方の入会をお待ちしております。左記までご連絡くだ

さい。 連絡先

米子双松会事務局 〒689-1340 米子市淀江町淀江771 TEL&FAX 085915612315

広島双松会

広島双松会 幹事長 石原 通弘(北高13期)

平成27年11月に第10回総会を双松会副会長長勝部昌幸様及び北高校長長泉雄二郎様、中野耕太先生にご臨席賜り開催し、活動計画等を決定しました。また、島根県広島事務所長長田茂男様に出席賜り、総会に華を添えていただきました。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしていますが、十分な周知が出来ていません。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は満10周年の記念総会・懇親会に、納涼親睦会1回、ゴルフコンペ2回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第11回総会・懇親会

日時:平成28年11月19日(土) 16時~19時 場所:広島ダイヤモンドホテル 広島市西区観音新町2-4-6

三、その他の行事予定

①納涼親睦会

日時：平成28年7月22日(金)

18時30分

場所：さとう広島店本館

「マダムシエンロン」

(広島市中区)

②親睦ゴルフコンペ

日時：平成28年9月19日(祝日)

場所：宮島志和カントリー倶楽部

(東広島市志和町)

四、連絡先

幹事長 石原 通弘

T73911742

広島市安佐北区亀崎一丁目29番26号

TEL&FAX

082-842-11416

携帯電話

090-9507-2312

E-Mail

ishiharaz926@memain.jp

通信制双松会

通信制双松会 会長

野津 裕

役員会開催のご案内

期日 平成28年11月12日(土)

12時

(当日は県立松江北高創立1

40周年記念総会日)

場所 松江(詳細は後日連絡)

松江北高創立140周年記念

総会への呼びかけ

期日 平成28年11月12日(土)

14時

場所 ホテル一畑

通信制卒業生多数の出席を

お待ちしております。

北高生の活躍

島根県高等学校
総合体育大会結果報告

2年連続男女総合優勝

(男子総合3位・女子総合3位)

5月下旬から6月上旬にかけて第54回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第1位となりました。昨年に引き続き2年連続の総合優勝となりました。8月に中国地方で開催される全国高校総体(インターハイ)への出場チーム・選手を紹介します。

○陸上競技部

男子5000m競歩

3年 泉 健太

男子4×100mリレー

3年 一戸遼太郎

3年 武田 悠真

1年 門脇 陸

1年 遠所 勇歩



男子4×400mリレー

3年 引野 隆輔

3年 武田 悠真

3年 石出 創士

1年 門脇 陸

女子400m

3年 福田 翔子

女子800m

3年 福田 翔子

女子1000mハードル

2年 大賀 結莉

女子4×400mリレー

3年 藤原菜奈美

3年 伊藤 元伽

3年 福田 翔子

2年 大賀 結莉

○登山部

男子団体

3年 梅田 和樹

3年 森山 健一

3年 垣羽 優

3年 三島 大輝

3年 長瀬亜紀子

3年 土谷 友美

3年 錦織のどか

2年 畑 日和

○ボート部

男子シングルスカル

3年 松崎匠之介

女子ダブルスカル

3年 石橋 佳歩

2年 入江 真由

女子クオドルプル

2年 舟塚 千敬

1年 森田 千晴

1年 立石 美苗

1年 平井麻友香

1年 山口 愛莉

1年 宮廻 那智

○バドミントン部

男子団体

3年 渡辺 風太

3年 水川 雅斗

3年 野々村 鴻

3年 角 佳祐

2年 瀬戸山俊介

2年 西垣内 哲

3年 水川 雅斗

3年 野々村 鴻

3年 水川 雅斗

3年 野々村 鴻

3年 水川 雅斗

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

3年 野々村 鴻

○弦楽部

2年 小川 歩未

1年 山本 大輔

1年 高木 佑

1年 里見 倭

3年 新延 夕佳

○弁論部門

3年 新延 夕佳

○放送部

NHK杯全国高等学校放送

コンテスト 3年 関根 由真

朗読部門 3年 金津 理子

福田翔子さん、
日本一おめでとう

六月に行われた第一〇〇回日本陸上競技選手権大会で、3年の福田翔子さんが女子800mに出場し、見事に優勝しました。陸上競技において現役で日本一に輝いたのは、北高始まって以来の快挙です。今後が注目される選手です。



本年度の進路状況

進路指導部長 坂上清一郎

2016年度入試における全国の国公立大の志願者総数は、前年から2千902人減の47万1千644人であった。5年連続の減少ではあるが、今年度は前年度から微減である。志願倍率もほぼ横ばいの4.66倍となった。

今年度は新課程完成年度の入試であった。国・英・地歴公民で問題傾向等に多少の変化は見られたものの、受験生にとって大きな混乱はなかった。それよりも注目されたのは、新課程先行実施で二科目となる数学・理科である。旧課程と比べ、内容も大きく変わり、理科では科目や試験実施形態も大きく変わった。さらに、昨年度は旧課程生用の代替科目も用意されたが、今年度はその措置はなし。前年に発表されたこともあり、昨年度の浪人生は昨年度決めてしまいたいという思いも強く、安全志向の出願が多かったと推測される。さらに、国立大の志願者数は1.7%減で倍率4.2倍にダウン、公立大は志願者数2.2%増で倍率6.4倍にアップした。特に後期日程で国立から公立にシフトしている。さらには私立

大一般入試の延べ志願者数が約4%増加した。これは、「高大接続改革」の流れを受け、国立大を中心に大規模な学部改組が進んでいることが影響している。具体的には、教育学部の教員養成以外の課程、いわゆるゼロ免課程の廃止や、地域系・国際系学部の増設、人文・社会科学系の縮小と理工・農学系の拡大が見られる。一方受験生としては、昨年度から文系人気復活し理系人気は低迷。文系募集枠減少とは逆の傾向が見られ、「文高理低」傾向が鮮明になった。

こうした受験概況の中、本校の状況は次の通りである。国立大合格者数は現浪合わせて延べ188名、私大295名、短期大学30名、専門学校等24名であった。いわゆる難関大学の合格者数は延べ25名、医学部医学科の合格者数は9名(国立大8名、自治医科大学1名)であった。国立大学合格者数に關して補足すると、延べ数は昨年度比16名減、一昨年度比14名減であるが、現役生は昨年度比15名減で、一昨年度と同数であった。現役生を日程別に見ると、前期日程および推薦で129名、中・後期で29名が合格した。生徒たちはよく健闘したが、全国の動向と同様に、例年と比べて後期日程での苦戦が目立った。

今年の3月31日に最終報告が示された「高大接続改革」は、大学教育・高等学校教育、大学入試を三位一体で改革するものである。その背景にあるものは、激動する社会であり、これからの時代に求められる力を育むための改革である。センター試験に替わる新しい入試は平成32年度の高三生からスタートするが、改革は加速している。学部学科の新設・改組や、個別試験内容の変更は来年度入試でも多数予定されている。ここ山陰の国立大学でも改組予定であり、志望校決定にはより多くの情報と研究が必要である。また、この改革が求めているのは、いかにして社会に貢献するか、その思いの強さとそれを実現するための能力を高めることである。各大学はアドミツションポリシーを明確にし、それに沿った個別試験を実施する。受験生は将来に対する強い思いを武器に、その思いに合致した大学・学部・学科を選択し、合格を目指す。そしてそれを実現しうる学力・人間力をつけんと努力する。高等学校はそれを可能にする教育を実施する。

本校が取り組んでいる「地域課題研究」「グローバル課題研究」さらにはICT活用・アクティブラーニング導入などの授業改革は、まさに「高大接続改革」と同じベクトルで動いている。また、県高校総体総合優勝に代表されるように、従来から掲げている「文武両道」の精神は、これから求められる力として大いに発揮されるものである。これらが連動して生徒の学びへの意欲が向上し、さらに充実した北高教育が実現するよう努力していきたい。

進路状況

平成28年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成28年4月集計)

卒業生	平成26年3月			平成27年3月			平成28年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大	128	46	174	143	30	173	128	28	156
公立大	22	6	28	26	5	31	30	2	32
私立大	221	128	349	230	76	306	230	65	295
短期大	30	2	32	29		29	28	2	30
専門学校	20		20	35		35	24		24
就職	3		3			0			0
合計	424	182	606	463	111	574	440	97	537
クラス数	8クラス			8クラス			8クラス		

編集後記

今年度は、松江北高創立140年を迎え、11月12日には、記念式典が開催されます。

この記念式典がきっかけになり、多くの卒業生の皆様が旧交を温め、青春時代の思い出話に花を咲かせ、母校の現在と未来を考慮して頂ければ幸いです。

また私は、第38期卒ですが、今年度は、卒業より30年という節目の年になります。同期において、8月13日に同窓会を開催する予定であり、こちらのほうも、同級生幹事の皆様とともに、準備を進めているところです。そして、これに先立ち、先日、お世話になった恩師をお招きし、高校生活を振り返る座談会をさせて頂きました。先生方2人と、生徒6人による少人数の会でしたが、終始和やかな雰囲気になりました。少しずつではありますが、懐かしい当時の記憶をそこにいる皆様方とともに、辿らせて頂きました。

とりとめの話の中で、私達について先生方に印象を尋ねてみると、勉強づけ(？)の毎日の中、とにかく「全体的に明るく、大らかであった」という印象をお持ちでした。確かに今思えば、高校生活において、社会の状況や将来への不安を感じることなく、高校生活を満喫させて頂いたと感じています。

翻って、現在の高校生は、人口減少社会の状況、教育、経済、社会保障の課題等、日本の抱える問題を肌で感じながら、学生生活を送っているとされます。私達大人が、希望ある未来を指し示すことは、重要だと思われ、どんな時代であれ、私は、北高生の皆様、今を大切に、自らの意志で夢や希望に向かって歩み続け、友達と過ごす青春を謳歌して頂くことを心より願っております。

(岩本雅之(38期))